下品醜悪鬼畜的恥辱陰惨淫奔戯画

昭和22年4月17日、埼玉県大里郡に生まれる。中卒。デビュー作「かんの虫」('71・7月号)。現在はアパートで眠りたいだけ眠ってゴロゴロしてマンガを描いてます。

ガロさんありがとう。ガロさんと知りあいになれて本当によかったなあと思います。これからもお元気でいつまでも長生きして下さい。ガロさんの繁栄を、私は宇宙と一体化して祈ります。南無大師遍照金剛。

桃彦さんは……

私が軽率だった

知っていたら私は
こんな悲しいめに
あわずにすんだのに
でも、もうておくれ
だわねえ………
ああ、なにもかも。

桃彦さんは……
恐ろしい病気に
かかっていたのです。

もう夏だった
私はとうとう
たまらず
虐次郎さんに
会つた。

黙っていたのは悪かった堪忍ネ でもね おまえみたいな三流芸者ほかに誰がお嫁にもらってくれるというの？

お淋おまえとの付合はもうながい 私は確信したんだ おまえなら必ず桃彦ちゃんの病気がなおせるとネ
えっあの病気の治療法あるのですか？

有る!!
たった一つではあるが有るのだっ!! ―それは―!!

お、恐ろしい そ、そんな恐ろしい事を……

はははは 非道といえば非道だが他に方法は無いからね。夫婦なら誰だってそのくらいの事するよ 愛してるんだろう？黙ってりゃわかりゃしないよ

私は不覚にも、桃彦さんを愛してしまっていたのです。あの人の為なら死んでも良いとさえ思っていました。ああああああああ虐次郎の言葉に私の心はズルズルと泥沼の底へ………。

私は実の姉をお屋
敷によびよせ、とうとう
手にかけてしまった。
蒲団部屋でやったの。

ギャッ

虐次郎の言ったとうり
だった。あの日以来
桃彦さんの病状は
ぐっとよくなった
ようだ。

やってよかった。これで
私も女として幸福に
なれるわ
お姉さん
ありがとう

一人やるも
二人やるも
五人やるも
百人やるも
オナジネ
数日後ヒョッコリ現われた虐は
このような恐ろしい事を申して
私の心をあおるのでした。
ああっ私の心はもう
抑制できないあああ

アヽ尋常小學生遭難圖

桃彦さん愛してるワ
―早く病気がよくなってネ―
こうして私は少年少女をひそかにお屋敷に連込み、次々と手にかけていったのです。死体は床下や庭のスミなどに埋めました。
モズが……
ギキー……
と、鳴いた。もう秋ネ
私は十人も殺していた。
そんな晩秋のある日
私はとうとう見たっ!!
くやしいくやしい
ぶっ

ぶっ
それまでは万一を考へ
あの女に危い橋を
渡ってもらうのだよ

もうぺいじの余裕が無いので
その夜、私はスグ二人の
寝首をかいてやった。
なんといっても独逸製の
剃刀だから二人は汚血を
いっぱいだし、スグ
死んだ。いいきみだわ
ホホホッホーホッ
オホオオホホ
ホッホッホ。

カタア

瑠璃病は瑠璃菌に
よる恐ろしい……

悪性伝染病
だったのです

ヨハリ 1972.1.25

明治三十五年春のことでした。